

Oh! 蔵 SPORT (山形県大蔵村)の事例

～ユニークなイベントを SNS とメディアの相乗効果で発信～

Q: どのような内容をどのようなメディアで取り上げられましたか？

「Oh! 蔵 SPORT」の代名詞ともいえる、地面まで積雪を掘る早さを競い合う「地面出し競争 World Cup in 肘折」は、4 テレビ局 (YTS 山形テレビ、SAY さくらんぼテレビ、NHK 総合・山形、テレビ朝日) や 2 新聞社 (読売新聞、山形新聞) (P3、4 参照)、ラジオ、インターネットの Yahoo! Japan まで様々なメディアで取り上げられました。

開催前には「今年は 3.5m の雪掘りに 地面出し大会」という見出しでの告知がテレビ放送され、イベント終了後には地方局はもとよりキー局のニュースとしても取り上げられました。キー局では「必見! 『雪掘り』ガチバトル “必殺青年団” vs “いぶし銀” 」という見出しで 6 分間の放送となりました。



また、Yahoo! Japan のトップページでは、「雪を掘って掘って『地面出し競争』」というタイトルとともにニュース動画が紹介されました。

※キー局でのニュース (テレビ朝日 ANN NEWS)

<http://www.youtube.com/watch?gl=JP&hl=ja&v=TCRcHFFR1Pc>

Q: どのような経緯・方法で取り上げられましたか？

地方紙には、日頃よりクラブのイベント情報をお知らせしており、ホームページ内に「地面出し競争」の公式サイトを設置し日々更新しています。公式サイトからの参加申込も可能で、公式ルールを紹介や歴代大会の結果、写真・動画など斬新なアイデア満載の楽しい情報を得ることができます。

「Oh! 蔵 SPORT」では、ホームページやツイッターなどの SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) を活用し、新しい情報を外部にむけて発信していくことを大切にしています。その成果として、回を重ねるごとに全国紙やテレビ局など様々なメディアで紹介してもらえるようになりました。

Q: メディアに取り上げられて良かった点や効果

目に見える効果として、県外も含め多くのチームに「地面出し競争」に参加してもらえるようになりました。

また、冬期間に落ち込む宿泊客数を、「地面出し競争」を開催することにより全国各地から地元肘折温泉へ誘致することで増やし、地域貢献の一翼を担うことができました。「地面出し競争」を通して、雪国の自然や温かい温泉の魅力に触れてもらうことができ、さらには、前夜祭を開催することで全国各地の皆さんと地域住民との交流が生まれるようになりました。

Q: 他のクラブへのアドバイスなど

「地面出し競争」は、豪雪を逆にとり深雪を活かした、肘折ならではのイベントです。他の追随を許さないユニークなイベントを開催することが情報を発信していくきっかけになると思っています。

さらに、クラブからの情報発信はクラブの認知度向上策であり、「Oh!蔵 SPORT」ではその手段として、ホームページが重要な役割を担っています。「地面出し競争」の公式サイトでは、リアルタイムの積雪深や地面出し競争を含むツイートを見ることができます。

遊び心を持ち続けることが、ネットワークメディアを通じた情報発信力へとつながっていくのだと思っています。

(八鍬むつ美 Oh!蔵 SPORT クラブマネジャー)

【Oh!蔵 SPORT プロフィール】

1. 設 立 年月日：平成 21 年 2 月 22 日

経緯：村内 2 地区を「生涯スポーツ 21 推進モデル地区」（山形県の事業）に指定。
村体協と行政が連携を図り設立。

2. 地 域 人口：3,772 人（平成 24 年 10 月現在）

特性：山形県で最も行財政規模の小さい村。「日本の棚田百選」に選定。「日本で最も美しい村連合」に加盟。村内の肘折地区は名湯肘折温泉と日本有数の豪雪地帯として知られている。

3. 運 営 会員数：240 人（平成 24 年 12 月現在）

予算：約 690 万円（平成 24 年度）

4. 特 徴 豊かな自然の素材を生かした事業を展開。「やりたいを実現する」「旬をタイムリーに提示」をコンセプトに、今年はスノートレッキングやどろんこバレーなど、約 30 のプログラムを実施。

5. 連絡先 〒996-0213 山形県最上郡大蔵村大字赤松 689-1（赤松生涯学習センター内）

TEL：0 2 3 3－7 5－2 2 1 2 FAX：0 2 3 3－3 4－2 4 1 7

Email：info@ohkurasport.jp

URL：クラブの HP <http://ohkurasport.jp/>

「地面出し競争」の公式サイト <http://ohkurasport.jp/jimendashi/>

雪掘り 無駄省き体力勝負

来月 肘折で地面出し競争

深さ2尺以上の雪を除雪用具のスノードンプとスコップで掘り下げる「第3回地面出し競争World Cup in 肘折」が2月26日、大蔵村の旧肘折中学校グラウンドで行われる。過去2大会を制し、3連覇を目指す地元若手男性でつくる「肘折青年団」に速く、深く雪を掘るコツを聞いた。(田代健一郎)



スコップとスノードンプを駆使し、素早く細長い穴を掘る青年団のメンバー(2011年2月、大蔵村で)

「地面出し競争」は、同村立肘折小中学校で毎年行われていた「雪上運動会」の競技の一つ。同校は2009年3月で閉校となり、深雪を生かした独自の行事を残そうと、地元有志が一般にも参加を募り、10年から大会形式で行われている。

1チーム最大6人(うち、直径5尺のフィールド内に入れるのは同時に4人まで)で、スノードンプ2台とスコップ4本を使用できる。ゴールは競技の名前の通り、足元の雪を掘って地面を出すこと。掘り出した土を審査員に届けるまでのタイムを競い、優勝チームには金色のスコップが贈られる。昨年は全国から14チーム、約80人が集まった。

地元・肘折温泉の「肘折青年団」は、2010年は2尺10の積雪を3分10秒、11年は2尺45の積雪を6分1秒で掘り起こした。メンバーの旅館業西谷光騎さん(30)は、「昔から慣れ親しんでいる競技。肘折を一番愛している自分たちが、負けるわけにはいかない」と

自信を見せる。

西谷さんは「基本は体力」と話す。リズム良く、一定のペースで掘るスタミナや、スコップさばきで使う手首や腰の強さ、重さ4キロを超える鉄製のスノードンプを操る筋力が問われるという。

一方、畜産業の菅野好也さん(27)は「力だけでは勝てない」と話す。穴の横幅は長方形のスノードンプの幅にぴったりに合わせて、無駄な作業を省く。菅野さんは、「効率的な排雪が時間短縮につながる」と説明する。

には、先頭の選手が掘った雪を地面まで運ぶために足場を作って中継する選手も必要で、チームワークも欠かせないという。西谷さんは、「普段通りの力を出せば、結果はついてくる」と、3連覇に向けて気合十分だ。

◆ 大会を主催する大蔵村の地域総合型スポーツクラブ「Oh蔵SPORT」は、大会の参加チームを募集している。締め切りは2月20日。申し込み、問い合わせは同クラブ事務局(0233・75・2212)へ。

積雪量は3.5㍎
地面出しに苦戦

大蔵・肘折で競技会

第3回地面出し競争ワールドカップin肘折が26日、大蔵村の肘折生涯学習

センターグラウンドで開かれ、参加者が降り積もった雪を掘り出すユニークな競技に挑戦した。写真。

県内外から初出場13チームを含む22チームがエントリー。1チーム6人のうち



4人まで自由に交代しながら、直径5㍎のフィールドに入って雪を掘り進め、雪の下のを審判員に届けるまでのタイムを競った。

参加者は雪が降る中、スコップやスノーダンプで大量の雪を掘り出した。積雪量は前回よりも80㍎ほど多い約3・5㍎で、経験者チームも苦戦した様子。地元肘折青年団チームの羽賀浩人さん(36)「同村南山、自営業」は「雪が湿っていて重く、掘り出すのに苦労した。来年も出場したい」と話していた。

地面出し競争は、2009年3月に閉校した肘折小中学校の雪上運動会で名物だった競技。閉校後もこの競技だけは残そうと同村の総合型スポーツクラブ「O h!蔵SPORT」などが開催している。